

Page	指摘事項	回答
0	第1章の前に、港区長から地域戦略に対する思い、意気込みの言葉が必要。例として愛知県地域戦略は、大村知事が「人と自然が共生するあいち」の実現を目指して」と題して意気込みを明記している。つまり地域戦略が誰の為に作られたのか、行政の責任者として明確に記述すべきである。「生物多様性ながれやま戦略」では、「今なぜ、“ながれやま戦略”なのか」と題し、戦略の必要性が明記されている。同様の記述が必要。 (http://www.city.nagareyama.chiba.jp/information/82/477/003635.html)	今後、記述します。
0	もくじの一番最後、および、地域戦略の一番最後に索引を加えるべきである。地域戦略の活用のためにも索引が必要。	作成します。
0	環境負荷のデータや内容が欠落しているので、追加することが必要と考えます。数値やデータで現状を確認することが必要と考えます。	可能な範囲で記載に努めました。ベースラインデータとして、今後、さらなる整理に努めます。
0	今後の目標について、指標があったほうが、実効性が高まると思います。	できるだけ記載に努めました。今後、データの整理、蓄積に努めます。
0	全体に、女性の視点を積極的に取り入れることが必要と考えます。	取り入れに努めました。また、イラストについては、男女機会均等の視点を取り入れました。
0	基本的に写真や図が少し小さいように思われます（特に生き物の写真など）。もう少し大きくできればお願いします。	可能な範囲で対応しました。
0	港区の生き物の写真などをもう少し入れたらいかがでしょうか？ 全体的に、文章ばかりで、多くの区民にはとつき難い印象を持ちました。例えば、各章の表紙に、港区の代表的な自然や生き物の写真を入れるなどしたらいかがでしょうか？	表紙も含め、検討中です。
0	統計的に把握できる、「港区の社会の変化」をもう少し入れてもいいのではないのでしょうか？ 例えば人口変化など（国勢調査の長期変化を用いるなど）はグラフ等で入れられると思います。多くの区民にもインパクトがあると思うのですが。	ページ数の制約から削除しました。今後、ホームページ等での公開を検討します。
0	全体を一読して「港区生物多様性地域戦略」は「戦略」と言うよりも「読本」に近い内容となっている。戦略（strategy）ではない。	区民へのわかりやすさという視点を重視し、現在の構成としました。
0	体裁が「港区 緑と水の総合計画」と似通っており、同レベル計画と読み取れるが、生物多様性地域戦略は、上位計画として位置付けられるものである。	区は、環境基本計画の下に位置づけます。
0	生物多様性や生態系サービスの経済的価値の評価に関する記述を加える。 (http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/valuation/index.html)	一般の方へのわかりやすさを重視したため、経済的な価値の評価については、触れませんでした。
0	多種多様な内容で量が多く、どこが最重要事項なのかわかりにくい。	網羅的に見えますが、具体的な取組は、優先順位を整理し強弱をつけています。
0	生物多様性重要性を区が認識していることや、港区が目指す目標像をはじめに強調すべき。	区長の寄稿分の中に記述します。
0	全体が行政の視点で書かれている、市民の視点や意見を強調すべき。	ページの関係で記載は少ないですが、市民の意見や視点を盛り込みました。
1	「第1章 港区の生物多様性地域戦略」タイトルの変更が必要。素直に読めば「港区の生物多様性地域戦略」は、2頁から14頁までとなるが、本書そのものが「港区の生物多様性地域戦略」ではないのか？	「港区生物多様性地域戦略の策定の背景と概要」に修正しました。
1	国やその他の地方の戦略もそうですが、一般の方が分厚い冊子のすべてに目を通すのは困難なため、エッセンスを凝縮した「要約」が必要と思います。	別途概要版を作成する予定です。
2	「1. 大都市・港区～その特徴」は、関東平野の中で港区がどの位置にあるのか、集水域の中でどのような位置づけにあるのか、地図で示すべきである。	今回は見送らせて頂きました。
3	種の多様性に関する記述で何度も指摘しているが改善の努力が見られない。種の多様性とは、様々な種類の生きものがあることではない。生物多様性条約で定義している「生物の多様性」とは、すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかんを問わない。）の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。」この変異性をしっかりと勉強して修正すべきである。現状の書き振りでは、様々な種類の生きものを、至る所からかき集めれば、それで種の多様性が作られると誤解されかねない。	一般の方にわかりやすい表現に努めました。

Page	指摘事項	回答
3	生態系の多様性に関する写真「東京湾」は、差し替えるべき。東京湾の海の中の生物の写真の方が良い。	海については適当な写真がなく、現状の写真としました。
3	3つの多様性の他に、景観の多様性や文化の多様性の記述を加える。後述の第2章の「港区の多様性」の暮らしと文化、自然の変遷などと連動する。	「生物多様性国家戦略2012-2020」の記述等を参考に、作成しました。
3	3つのレベルが有りという表現は、正確な表現ではなく適切な表現に改めるべき。	難解な用語を使わず一般の人に判りやすい表現に努めました。
5	港区で見つけた生物多様性の恵みは、具体的な例が示されており、良いと思います。願わくば実際の区民が利用している様子が示されていた方が（人がうつっている写真のほうが）より身近に感じることが出来ると思います。	今回は見送らせて頂きました。
5	すべての生命の生存システム（基盤サービス）：これが最初の方が良いのではないのでしょうか。	国家戦略にある順にしがいました。
5	「生態系サービス」の記述は、国家戦略の記述を参考にすべきである。	区民へのわかりやすさという視点を重視し、現在の記述としました。
5	斜面林の写真：もうちょっと明るい写真の方が良いかと思ひます。	補正しました。
5	文化的サービスとの記載は、文化サービスと改めるべき。	この言葉が広く使われているためこの表記とさせていただきます。
6	図1-2 生態系の臨界点 国の図を踏襲するよりも愛知生物多様性戦略2020の25頁の図を参考にす方が良い。書きぶりも参考にすべきである。	今後、参考にさせていただきます。
7	図の説明「値1は絶滅の危機に瀕していないことを表します」：「値が1に近づくほど分類群の絶滅の危険性が低いと言えます」としてはどうでしょうか。	ご指摘のとおり、修正しました。
7	コラム1のレッドリスト指数の図に加え、我が国の絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する点検とりまとめ報告書（ http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=19531&hou_id=15012 ）の表1-1、または、図1-2を入れることができないか？ つまり世界の状況の図の他に日本の状況を表現できないか？	今回は見送らせて頂きました。
8	港区は事業者も大変多いため、年表の中に「生物多様性民間参画ガイドライン」2009年を追加していただくとよいと思ひます。	ここでは、法律と国家戦略に限って整理しました。「生物多様性民間参画ガイドライン」については、行動計画を実行する中で、参考とします。
10	「対象とする区域」について「港区全域」とあるが、必要に応じて隣接した区と連携する、または、情報の共有をするなど明記できないか？ つまり広域調整の仕組みの記述が必要と考える。	他地域との連携については、5章の推進体制等で記述しています。
11	図1-7について、枠の中に記述されている「生物多様性基本法、愛知目標、生物多様性国家戦略、東京都緑施策の新展開」の並列記述の整理が必要。生物多様性基本法に基づいて生物多様性国家戦略が作られている。また、生物多様性条約締結国会議によって愛知目標が定められている。	現状のままとさせていただきます。
20	本文11行目「漁業権が放棄され」：これは港区でということですか。東京湾全体ですか。	「東京都では」を追加しました。
21	生物多様性総合評価（JBO：Japan Biodiversity Outlook）においても日本の生物多様性は、高度経済成長期に失われたとされていることから、「高度経済成長期の港区」の記述のところに、生物多様性総合評価報告においても指摘されている旨、記述を加えるべきである。 http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/jbo/jbo/files/summary.pdf	脚注を入れました。
22	（今後の再生に向けて）「再生」という単語を別の用語に置き換える。恐らく再生と言う言葉は「自然再生推進法」などから引用されていると思われるが、そもそも「再生」とは、トカゲの尻尾が切れた時などに自らの力で元に戻ることを指す。しかし、ここで明記されている「再生」は、むしろ復元や創出などに近い。	「再生」とした方が一般の方に伝わりやすいと考え「再生」としました。
23	縄文から戦国時代までが「海の恵みに支えられた生活」とありますが、海に限定する必要はあるのでしょうか？	海からの恩恵が特に大きいことから、強調した表現としました。
23	「鉄道の開通」「首都高速道路の建設」など、年を明記できるものは明記したほうが良いと思ひます。	年を明記しました。
23	戦後から高度成長期のところの緑の矢印が、「高度経済成長期」との説明は、説明になっているのでしょうか？自然に対する影響を書くところなので、他の表現が良いのではないのでしょうか？	ご指摘を踏まえ、修正しました。
26	港区の生物多様性の記述に「自然教育園」や「赤坂御用地」の記述を加えるべきである。港区は、緑被率が高いが、その大部分を二つの緑の塊りが支えている。28頁記述と連動する。	ご指摘を踏まえて修正しました。
35	本文3行目「適応した種が多い、外来種が212種と多い」：多いという表現が重なるので、どちらかを修正した方が良いでしょう。	修正しました。

Page	指摘事項	回答
36	ベニイトトンボのキャプション（東京都レベルで絶滅危惧Ⅱ類）：「全国レベルで準絶滅危惧」と記載した方が良いのではないのでしょうか。	修正しました。
37	外来生物に関する記述は、生態系への影響のみに限定せず、感染症や精神的な被害、人身被害などについても記述する必要がある。また、バラスト水の問題も関係する。物流と外来生物とは関係が緊密である。	ご指摘を踏まえ、修正しました。
40	「水の流れ」の記述は、集水域と言う単位で記述する必要がある。	現在の生活圏の視点で、記述しました。
45	「普及啓発・教育」の記述は、もっと充実した内容にすべき。人材育成まで言及すべき。	今後、情報収集、整理に努めます。
47	本文最下行「made in 港区」：作物の生産には、makeを使わないと思います。例えば、make riceはcookに近い意味のようです。つまり、ご飯の炊くことです。会議で使われたキャッチフレーズだと思うのですが、表現を工夫した方が良いのではないのでしょうか。	本文では「港区産」としました。区民意見では、その場の発言を尊重し、そのままとさせていただきます。
51	アンケートに、生物多様性の説明文を同封したことを明記すべき。	アンケートの趣旨が誤解されるおそれがあるため、見送らせていただきました。
52	「環境の保全と生活の便利さ」のところ、「環境の保全を優先すべき」と「環境の保全を優先しつつ生活の便利さもある程度配慮」を合計させて、「7割以上の区民が」と表記するのは、やはり正確な表現ではないです。「環境の保全を優先すべき」は1割程度でしたが、どちらかといえば、環境の保全を優先する意見を合わせると7割以上になっている、ということを引きちんと表記しておくことが、今後の継続的な把握の上でも必要だと思います。	ご指摘を踏まえ、修正しました。
54	「これまでに参加したことのある活動」（区民）のところ、無回答の存在にも注目すべきではないのでしょうか。すなわち、3割の人たちは取り組んでいないことも、重要なデータだと思います。	ご指摘を踏まえ、修正しました。
57	「20年後、港区はどうなっていると思いますか？」の、小学5年生と中学2年生のグラフですが、パーセントが100にならないのはなぜでしょうか？ポジティブ、ネガティブを合計すると100を超えます。重複している場合は、「混ざった予想」にカウントするのではないのでしょうか？	集計ミスがありました。修正しました。
59	図2-28、作られた図の配置やどのように整理したのか説明が必要。	現状のままとさせていただきます。
61～	港区の暮らしと生物多様性をつなぐ3つのキーワードで一番人々が関心を持っている「食」が、次ページ以降コメントが最も少ないので、以下を補足していただきたい。 港区は、ほとんどの食材を他地域に依存しているが、p84の目標4 行動方針(1)まちの生物多様性の恵みを活かそう。そこで江戸のファストフード、屋台の食文化の見直し。にぎり寿司、天ぷら、焼き鳥や佃煮などの地域固有の伝統的食文化を区民が伝承して、国内外に紹介、守り続けて行くようにする。さらに、地産地消の食材を用いて新しいレシピを考え進化させる。	取組の詳細については、「4-(1)-②生物多様性を象徴するまちの”自慢”をつくる」などの取組を実行する段階で検討します。
63	食のボックス「made in 港区」のブランド化：同上。	本文では「港区産」としました。区民意見では、その場の発言を尊重し、そのままとさせていただきます。
64	食のボックス「DASH海岸」をする：説明が必要かと思います。	脚注を加えました。
68	● 里山などでの自然体験や交流活動 について みなと区民の森づくり に、わさび田作り、鳥の巣がけ、野鳥観察、昆虫観察や炭焼き体験も行った。そのようなワークショップを今後も継続して行く。	今後、取組を実行していく中で、参考とさせていただきます。
68～69	P68, 69の写真にもっと笑顔がほしい。	個人情報保護の観点から、原則的に顔を掲載できないため、現状のままとさせていただきます。
69	(2) 生物多様性と関連のある学習施設 について、 区立エコプラザの補足 あきる野市の森（区民の森）の間伐材を床、壁、天井に利用したユニークでエコな施設です。開館当初から、内外の多数の来館者を迎え入れて環境啓発の施設として貢献している。	ご指摘をふまえ、修正しました。
76	めざす将来像に明記されている2020年と2050年までの目標は、愛知目標と連動しているのか、無視しているのか不明。しっかり愛知目標と連動した目標であることを明記すべき。	10ページに明記しました。
77	愛知目標について言及するのは良いと思いますが、P77以降の2020年港区目標とのリンクがよくわかりません。各目標が愛知目標のどの項目に貢献するのか、たとえばアイコンなどを利用して表現すると、一般の方にもわかりやすいのではないのでしょうか？ それぞれの目標が、愛知ターゲットとどうつながっているか明記すること。	今回は見送らせていただきました。
90	各主体の役割で「区」、「区民、事業者」、「教育・研究機関」とあるが「区民」に限定すると区民以外の活動がないように見える「区民等」とするか「港区に関わる人々、事業者」などとする方が良い。	ご指摘をふまえ、修正しました。

Page	指摘事項	回答
91	<p>■ 区の取り組みの概要</p> <p>【取り組みの内容】</p> <p>a. 区有施設で、生物多様性について、案内、説明出来るコンシェルジュを置く。多様な人々と触れ合い、情報を共有するようにする。</p>	今後、取組を実行していく中で、参考とさせていただきます。
95	白紙のページは不要。	削除しました。
95	1- (2) -② 自然と気軽にふれあえる場所の整備 【事業予定】の記載なし 継続なので記載がないのか、記入漏れか、95Pが空白ページとなっています	他の計画に基づく事業のため、事業予定を割愛しています。空白ページは削除しました。
98	養殖版海のエコラベル、ASC認証を追記する。 (http://www.wwf.or.jp/activities/nature/cat1136/asc/)	取組を実行していく中で、検討します。
101	3- (1) -① いきものに配慮したまちづくりの推進 b. 生物多様性の評価指標とガイドラインの策定 「行動メニュー」と同様に“ガイドライン”も「」付きでいいようにも感じますが、固有名詞ではなく汎用性のある用語として使用しているということでしょうか。	汎用性がある用語と考え、「」を付けておりません。
107	達成目標「平成32年度までに、シンボルとなる生きものを選定すること。」：これまでの議論の経緯が定かではないのですが、この目標はもう少し前倒しできないものでしょうか。エコロジカルネットワークの検討の中で合わせて議論できるような気もします。	シンボルの候補は、エコロジカルネットワークの検討の中で議論されますが、シンボルの決定は、区民による投票などで決めるべきと考えます。したがって、現状のままとさせていただきます。
108	3- (2) -② 重要な自然環境の保全 【事業予定】の記載なし 継続なので記載がない？	他の計画に基づく事業のため、事業予定を割愛しています。
113	外来種の侵入・拡散防止の記述に「根絶」をいれること。外来生物の対策として水際規制（侵入防止）、次に根絶。根絶が出来ない場合、封じ込めとなっている。	環境省が策定中の「外来種被害防止行動計画」（仮称）の公開を待ち、これにあわせ、取り組む計画です。
125	推進のしくみでは、評価やモニタリングに第三者が入ることが肝要と思います。	今後、必要に応じて、第三者の関与を検討します。
資-9	私の肩書が間違っている。正式には「公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン」、必ず修正のこと。	修正しました。申し訳ありません。
資-24 ～ 資-40	これらの図表は、資料とせず本文の中に入れるべき。わざわざ後ろに付け足してある意味が分からない。	本編のボリュームを少なくする構成とすることに努めたため、このような構成にしました。
資-41	参考になるウェブサイトは、それぞれURLを入れるべき。	URLを入れました。